2016年度 決算説明会

2017年5月26日

あすか製薬株式会社

2016年度
連結決算概要

あすか製薬株式会社
専務取締役　丸尾　篤嗣

損益計算書(連結)

単位:百万円	2015年度	2016年度	増減額	増減率
売上高	43,215	48,527	5,311	12.3%
売上原価	26,070	29,614	3,543	13.6%
売上総利益	17,144	18,913	1,768	10.3%
販売費及び一般管理費	15,861	17,119	1,258	7.9%
営業利益	1,283	1,793	510	39.7%
経常利益	1,522	2,002	480	31.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	701	2,944	2,243	319.8%

事業別売上高(連結)

単位:百万円	2015年度	2016年度	構成比	増減額	増減率
医療用医薬品	**38,955**	44,083	90.8%	5,127	13.2%
動物用医薬品	**3,927**	4,160	8.6%	232	5.9%
その他	**332**	284	0.6%	△ 48	△14.5%
合計	**43,215**	48,527	100.0%	5,311	12.3%

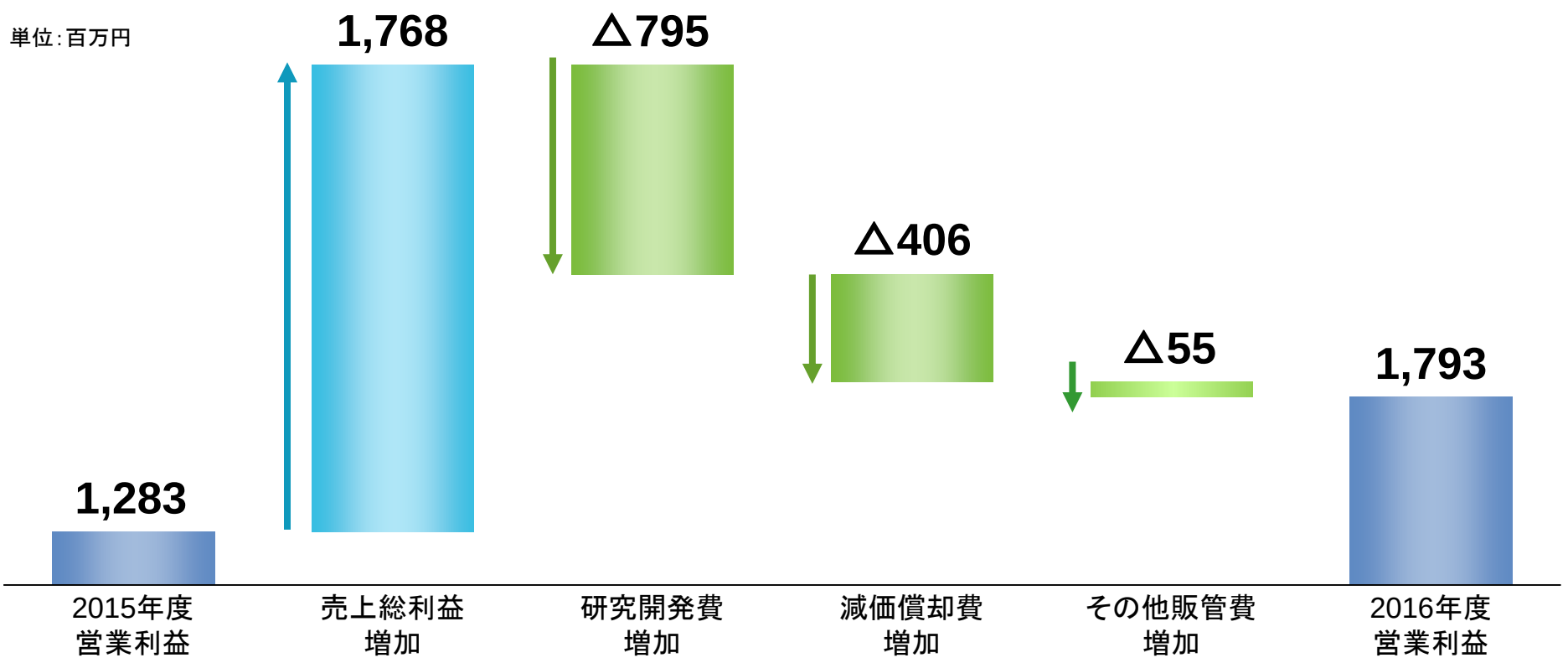
主要製品売上高

単位：百万円

領域	製品		2015年度	2016年度		2017年度	
			実績	実績	前同比（%）	計画	前同比（%）
内科	※1、※2	カンデサルタン類	9,114	12,748	139.9%	13,636	107.0%
		チラーヂン	4,780	5,449	114.0%	5,504	101.0%
		リピディル	4,456	4,407	98.9%	4,320	98.0%
	※1	アムロジピン	1,796	1,672	93.1%	1,662	99.4%
		メルカゾール	495	1,137	229.6%	1,111	97.7%
	※1	ラベプラゾール	1,035	950	91.7%	948	99.8%
		リフキシマ		136	― %	1,397	1,025.2%
産婦人科		ノルレボ	907	1,139	125.6%	1,109	97.4%
		アンジュ	963	934	97.0%	905	96.9%
		メノエイド	595	656	110.3%	698	106.4%
		ルテウム膣用坐剤	7	323	― %	418	129.4%
泌尿器科	※1、※3	リュープロレリン	2,720	3,841	141.2%	3,952	102.9%
	※1	ビカルタミド	1,798	1,782	99.1%	1,772	99.5%
		プロスタール	1,494	810	54.3%	926	114.2%
	※1	リストリーム	698	647	92.7%	639	98.8%

※1 ジェネリック医薬品
※2 配合剤を含む
※3 1.88mg製剤は産婦人科適応のみだが、3.75mgと合算

営業利益増減分析（対前同）



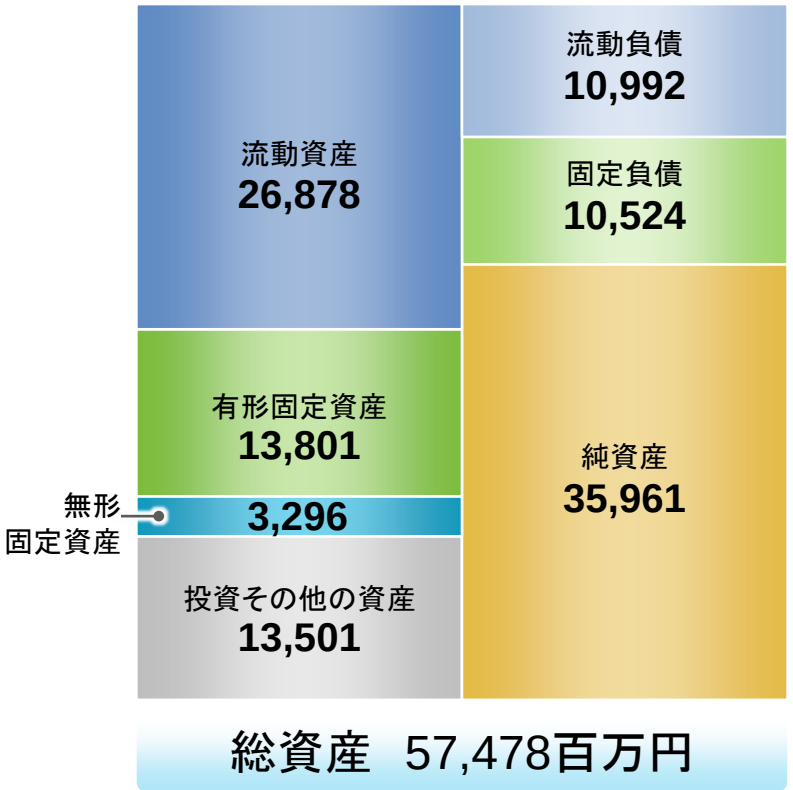
要因分析

- 売上の拡大に伴い売上総利益が大幅に増加
- 研究開発費および減価償却費は増加したものの売上総利益の増加によりカバーし、増益を達成

貸借対照表（連結）

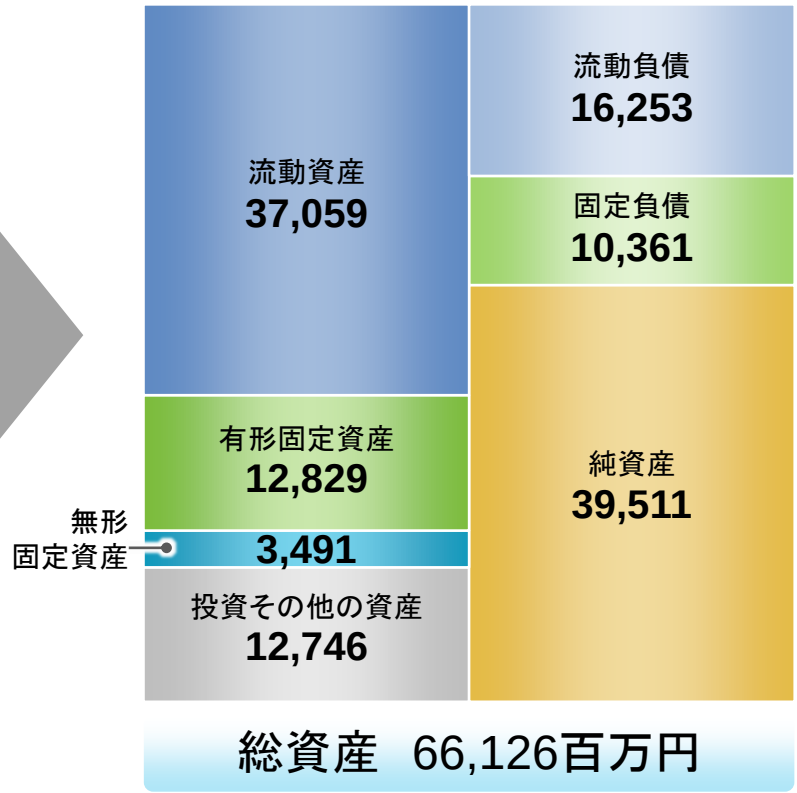
2015年度末

単位：百万円



2016年度末

単位：百万円



	総資産	流動資産	有形固定資産	無形固定資産	投資その他の資産	流動負債	固定負債	純資産
増減額	8,648	10,180	△972	194	△755	5,261	△163	3,550

2017年度予想（連結）

単位：百万円

	2016年度 実績	2017年度 予想	対前年 増減額	対前年 増減率
売上高	48,527	50,000	1,473	3.0%
営業利益	1,793	2,000	207	11.5%
経常利益	2,002	2,100	98	4.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,944	1,800	△ 1,144	△ 38.9%

要因

- 「カンデサルタン類」等の堅調な伸びや、新製品「リフキシマ」の市場浸透等により増収の見込み
- 増収に伴う売上総利益の増加により、営業利益、経常利益は増益を見込むものの、親会社株主に帰属する当期純利益は、2017年度では2016年度のような特別利益の計上が見込まれないことから減益となる見込み

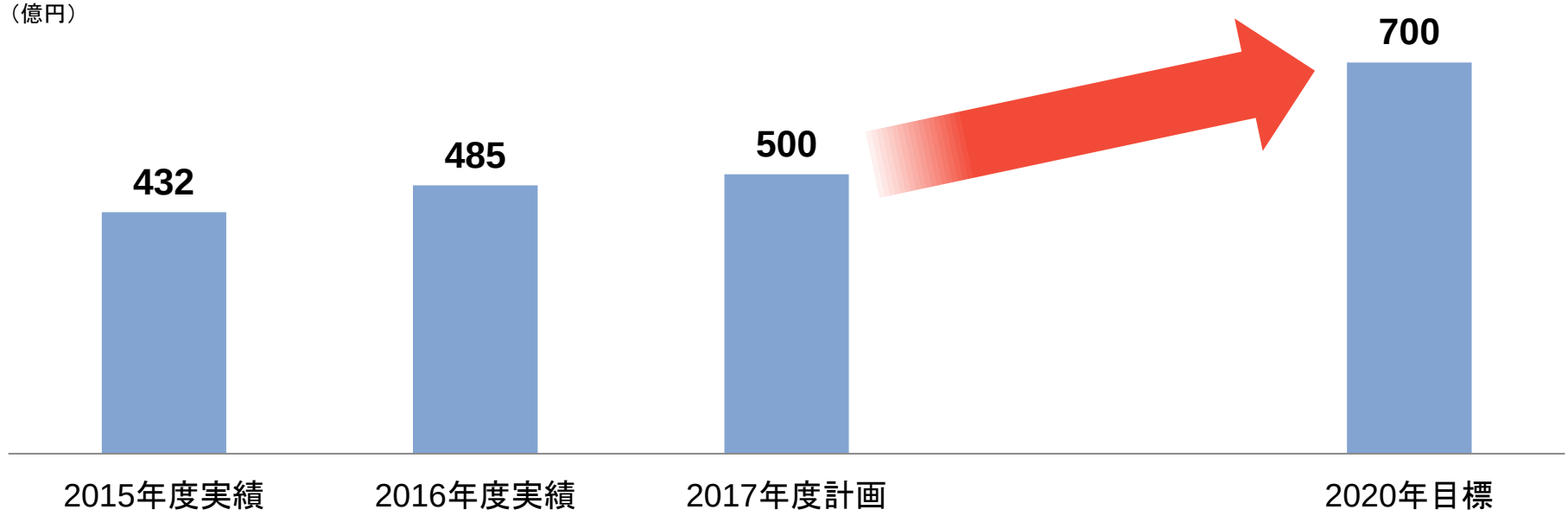
2016年度総括
～ASKA PLAN 2020の進捗～

あすか製薬株式会社
代表取締役社長　山口 隆

ASKA PLAN 2020 定量目標

連 結

	2016年度 実績	2017年度 計画	2020年度 想定目標
売上高	485億円	500億円	700億円
営業利益率	3.7%	4.0%	10.0%
ROE	7.8%	4.6%	8.0%



ASKA PLAN 2020の目指す姿

2015　2016　ASKA PLAN 2020　2020　2021-

2016 成果

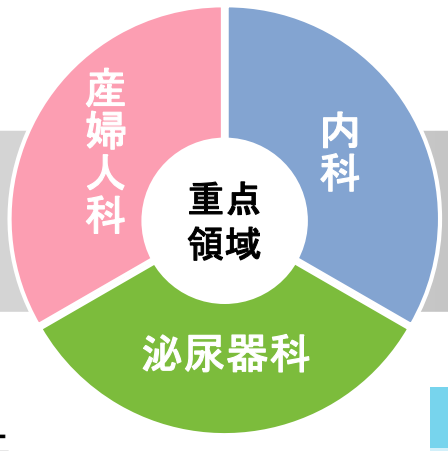
- リフキシマ 発売
  ルテウム膣用坐剤 発売
- カンデサルタンAG類
  重点領域GE 伸長
- ノーベルファーマとの
  包括的業務提携
- CDB-2914 PⅡ終了
- ライセンスインによる
  2製品獲得

環境変化

- 薬価制度の抜本改革
- 開発・導入コストの上昇

新薬
AG/GE
基礎的医薬品

甲状腺・
産婦人科
プレゼンス向上



**存在感のある
スペシャリティファーマ**

4つの挑戦

- □ 新薬事業の強化
  自社創製品/導入品臨床入り
- □ 育薬による製品価値向上
  リフキシマ育成
- □ コスト構造の見直し
  ERP導入による経営の効率化
- □ 社員の成長・能力向上

投資の継続　生産／研究開発

リフキシマ発売後の状況

内科

肝性脳症のKey Drug

1 既存抗菌薬からの切り替え

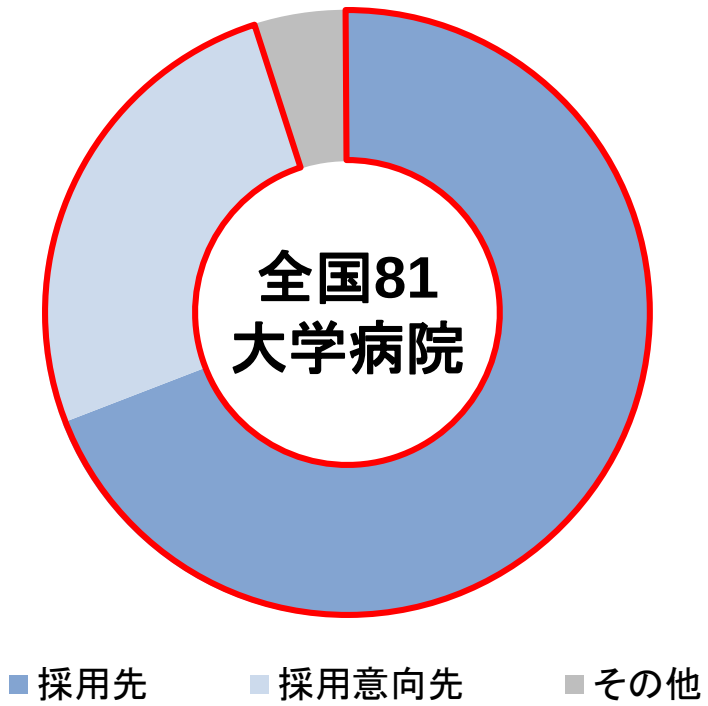
- 全例調査対象
- 流通管理品目

2 既存治療薬との併用

3 中心的薬剤の位置づけ

大学病院の約95%が採用・採用意向

（当社調査）



オーファンドラッグかつ全例調査対象
医療現場からの評価は高い

肝性脳症 啓発活動

内科

肝性脳症への認知度向上を図る

MRによる情報提供

- 医療機関への説明会　約1,900回（2016年10月-2017年3月）
- 重点施設 約1,300軒をカバー

発売記念講演会

- 東京・大阪等の大都市圏およびエリアごとのセミナーを開催

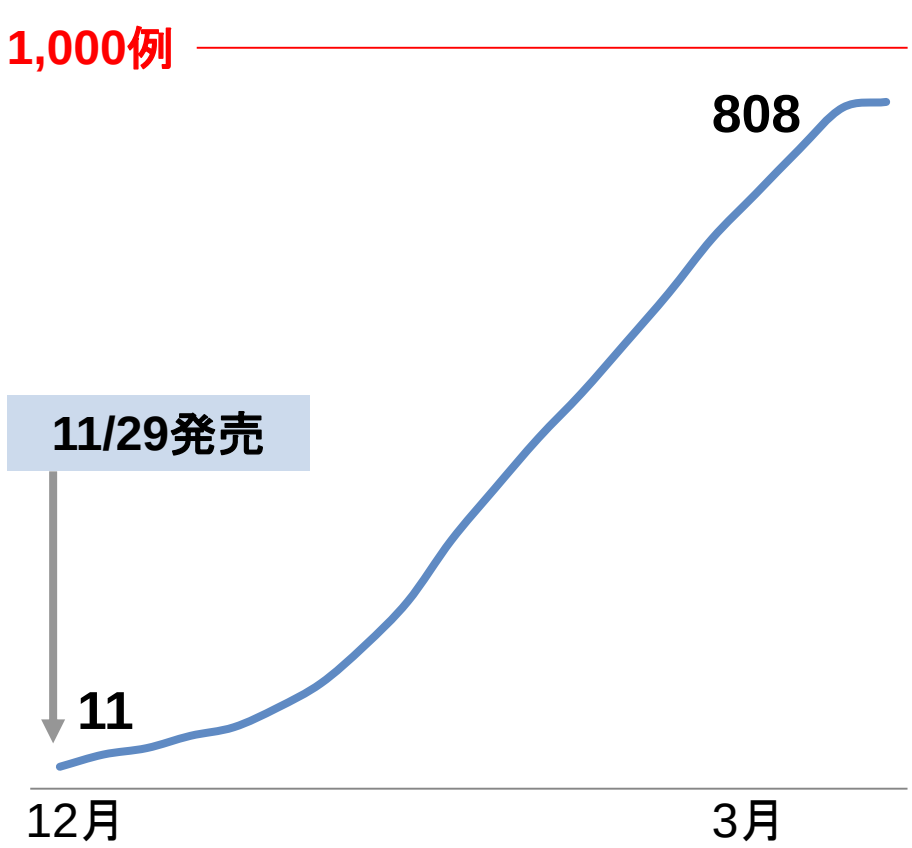
学会共催セミナー

- 専門医の製品・疾患認知向上

メディアセミナー

- メディア向けの疾患についての説明会
  全国紙、地方紙、業界紙、Web等約40媒体に掲載
- 一般の肝性脳症認知度向上を図る

使用成績調査 累計登録症例数推移



リフキシマ販売計画

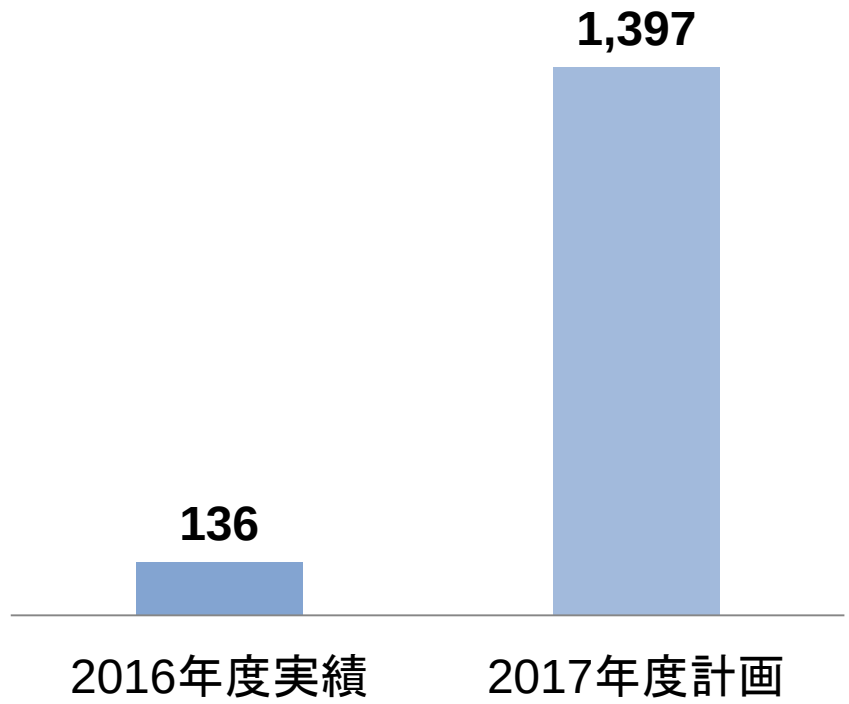
内科

2017年度の取り組み

- 全例対象の使用成績調査票
  回収継続
- 新医薬品の処方日数制限 解除（12月予定）



販売実績/計画

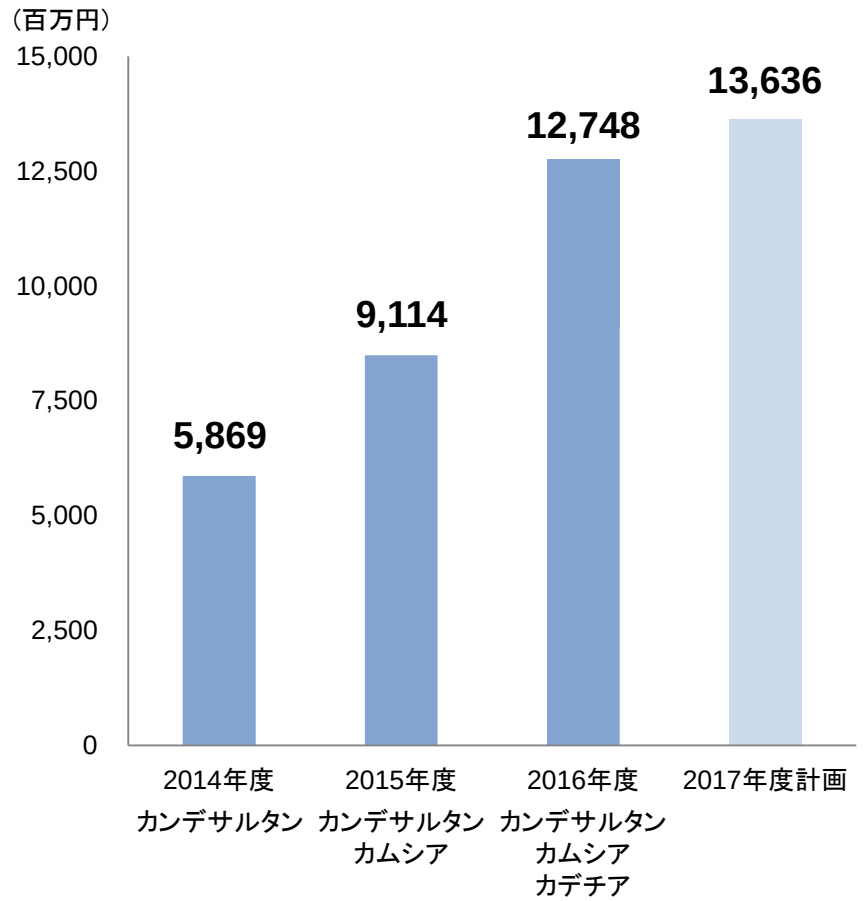


リフキシマは最重要課題として価値最大化に取り組む

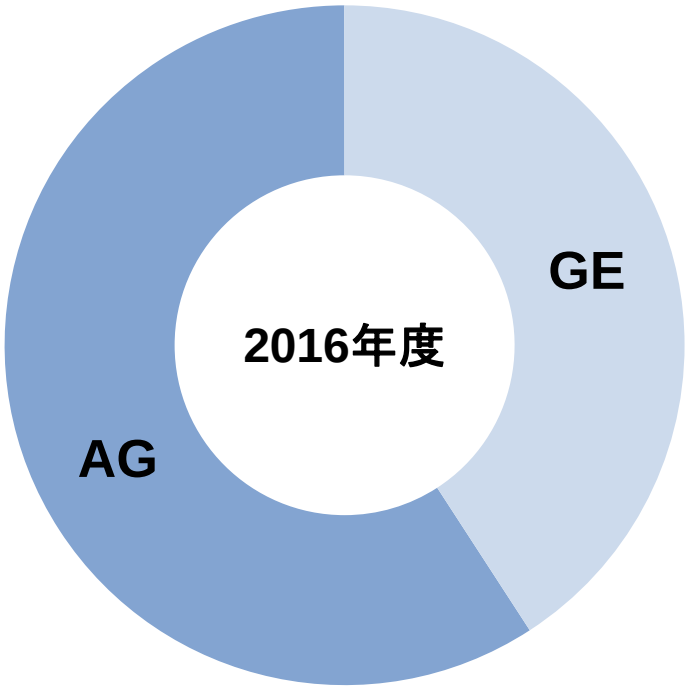
オーソライズド・ジェネリックへの取り組み

内科

カンデサルタン類 売上実績



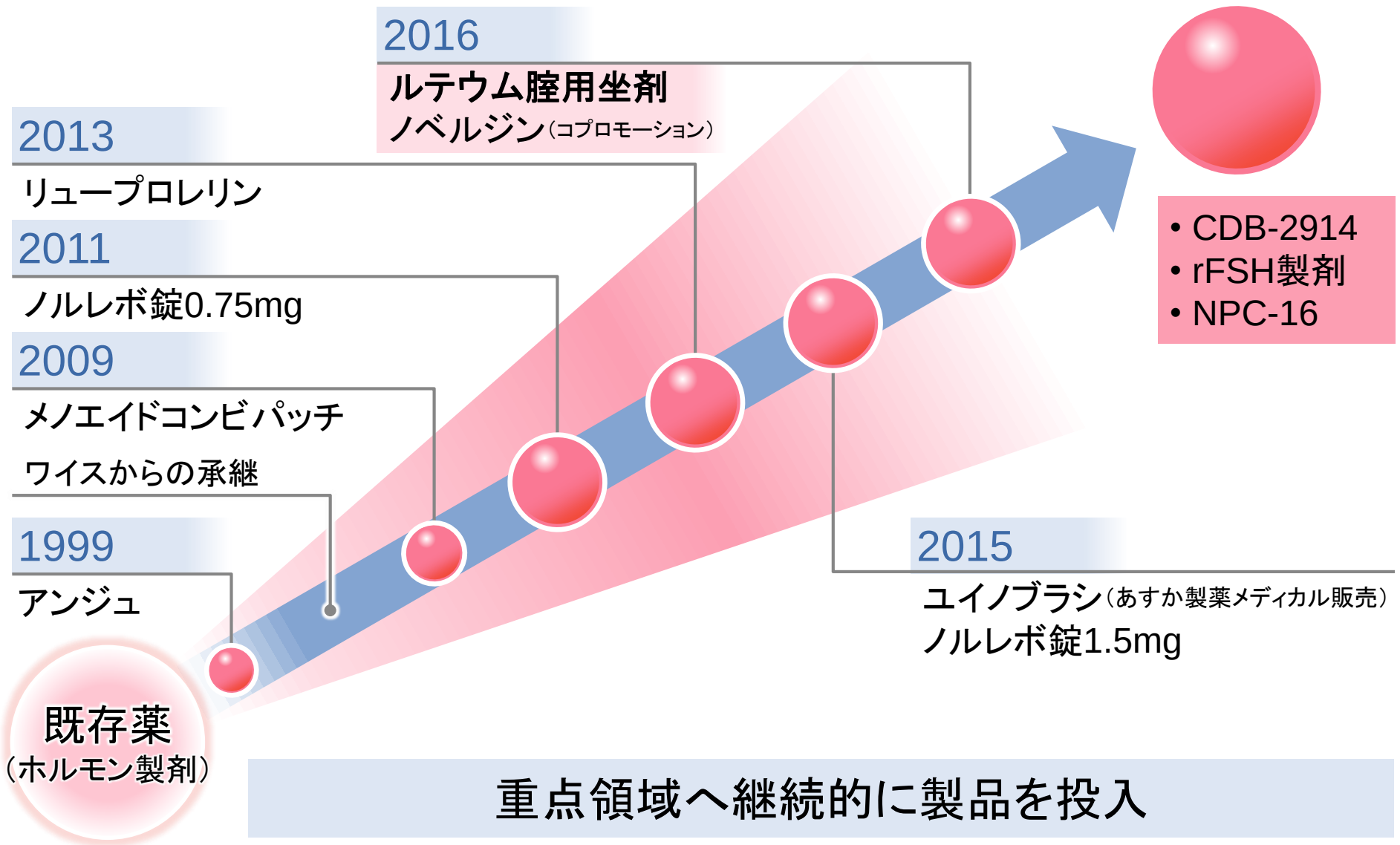
GE内シェア（数量ベース）



2017年度業績の主力品として、市場拡大を目指す

産婦人科領域におけるプレゼンスの向上

産婦人科



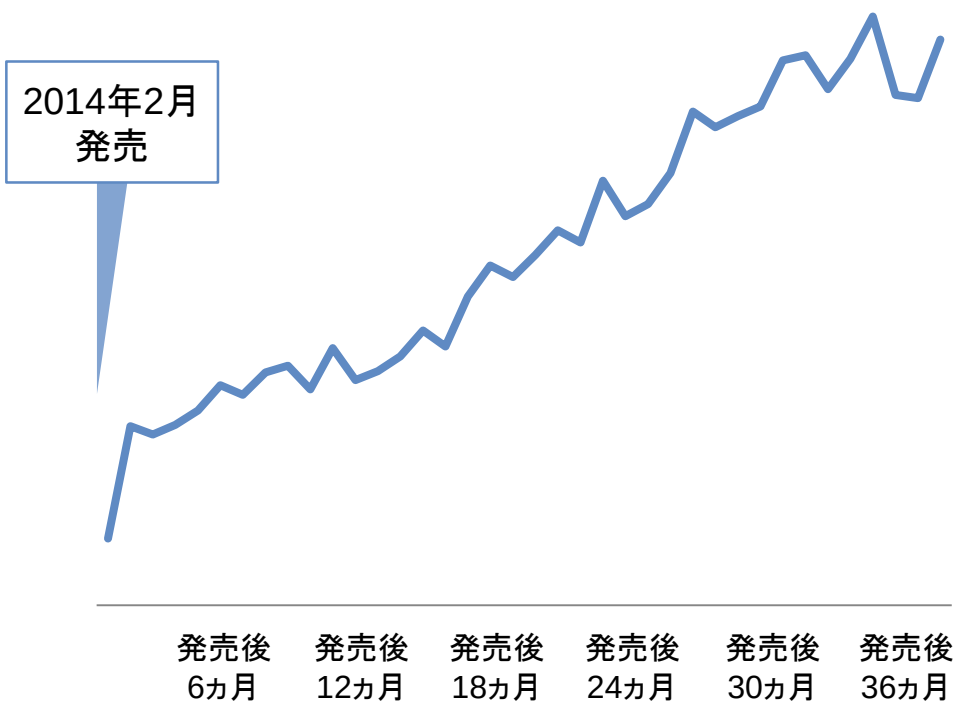
重点領域へ継続的に製品を投入

リュープロレリンの取り組み

泌尿器科　産婦人科

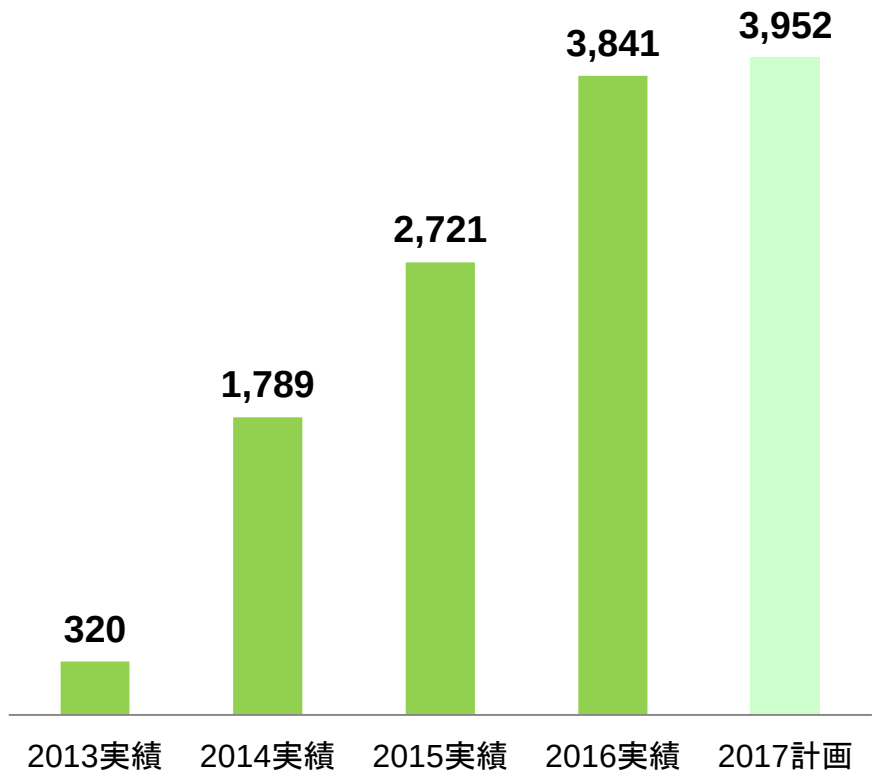
実績推移

処方数量ベース（1.88mg・3.75mg合算）



売上実績／計画

単位：百万円



2017年度の重点領域（産婦人科・泌尿器科）主力品として、取り組む

開発パイプライン

研究開発の状況（2017年5月時点）

開発コード／領域・効能	Ph Ⅰ	Ph Ⅱ	Ph Ⅲ	申請	承認
L-105 （リファキシミン） 肝性脳症（小児）	（準備中）				
※その他の適応症への開発については今年度中の進展を目指す					
CDB-2914（ウリプリスタル） 子宮筋腫			Ph Ⅱ 終了		
AKP-501（rFSH製剤） 不妊症					
AKP-015（T4注射剤） 粘液水腫性昏睡/重症甲状腺機能低下症	（準備中）				
※「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」において開発企業の募集が行われ、当社が開発することを決定した。					
■ 開発パイプラインは非臨床段階の品目がステージアップ次第、公開していく					
NPC-16 婦人科領域（月経困難症）				2017年7月 申請予定	
※ノーベルファーマ開発および製造販売					

T4注射剤 AKP-015　医療ニーズへの貢献

甲状腺ホルモン剤「レボチロキシン静注製剤」の開発
（効能・効果：粘液水腫性昏睡/重症甲状腺機能低下症）

医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬[1)]として、関連4学会[2)]から厚生労働省へ要望書提出

↓

厚労省 検討会議にて医療上の必要性が高いと判断

↓

厚生労働省からの開発要請を受諾

粘液水腫性昏睡

甲状腺機能低下症が基礎にあり、重度で長期にわたる甲状腺ホルモンの欠乏に由来する低体温・呼吸不全・循環不全などが中枢神経系の機能障害を来たす。頻度は極めて稀であるが、死亡率は16.7～52.2%とされており、正しい治療が行なわれないと生命にかかわる病態である。

推計患者数　約7～72人／年
（出典：未承認薬・適応外薬の要望に対する企業見解）

1：未承認薬・適応外薬：　欧米等では使用が認められているが、国内では承認されていない医薬品や適応
2：関連4学会：日本甲状腺学会、日本救急医学会、日本内分泌学会、日本病院総合診療医学会

ベンチャー企業との提携

TesoRx Pharmaとの経口テストステロンの提携

THG-1001について

低テストステロン患者に対するテストステロン補充療法

- 加齢に由来する性腺機能低下に伴い、男性ホルモンが低下し、リビドーおよび勃起能低下、抑うつなどの症状が現れる。低下したテストステロンを血中に補うこと（ART）で、これらの症状が改善することが期待されている。
- 開発状況：前臨床（米国）
- あすか製薬は日本における開発および販売に関する独占的な提携契約

TesoRx Pharma LLCの概要

2010年4月にWestern University of Health Sciencesとの共同研究を通じて設立され、本社を米国カリフォルニア州ポモナに置く非上場企業。

泌尿器科領域、がん領域に対して、同社の保有するリポソーム型ドラッグデリバリー技術による開発を行っている。

詳細についてはwww.tesorx.comを参照ください。

Pieris Pharmaceuticalsとの貧血治療剤に関する提携

PRS-080について

貧血治療剤

- 鉄代謝の主要な調節因子であるヘプシジンをターゲットとし、透析中の慢性腎臓病患者を対象とした臨床試験を欧州にて実施中。
- 開発状況：Phase Ⅱa（反復投与試験）　2017年後半に終了予定
- あすか製薬は日本、韓国および他のアジア諸国における開発および販売に関する独占的なオプション契約を保有

Pieris Pharmaceuticals, Inc.の概要

2001年にマサチューセッツ州ボストンで設立された米国ナスダック上場企業。
多くの疾患のターゲットタンパクに作用するバイオテクノロジー技術「Anticalin®」を利用し、免疫、がん領域への新薬を開発。
喘息治療剤や貧血治療剤のパイプラインを保有する。
詳細についてはwww.pieris.comを参照ください。

産婦人科領域における包括的業務提携

Nobelpharma

NPC-16の開発・製造販売

疾患：月経困難症

有効成分：レボノルゲストレル（LNG）
エチニルエストラジオール（EE）

開発状況：PhⅢ進行中（国内）

※ EEを超低用量化しており、血栓症のリスク低減が期待されます。

ノベルジン®錠25mgの開発・製造販売

疾患：ウィルソン病・低亜鉛血症（効能追加）

有効成分：酢酸亜鉛水和物

開発状況：承認済み

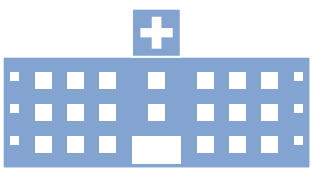
※ 亜鉛は、多彩な生理作用を有し、人の恒常性維持に働いている大切な元素です。現代社会において亜鉛不足は決して稀ではなく、このたび本邦初の「低亜鉛血症」の適応症で効能を取得しました。

あすか製薬

コ・プロモーション

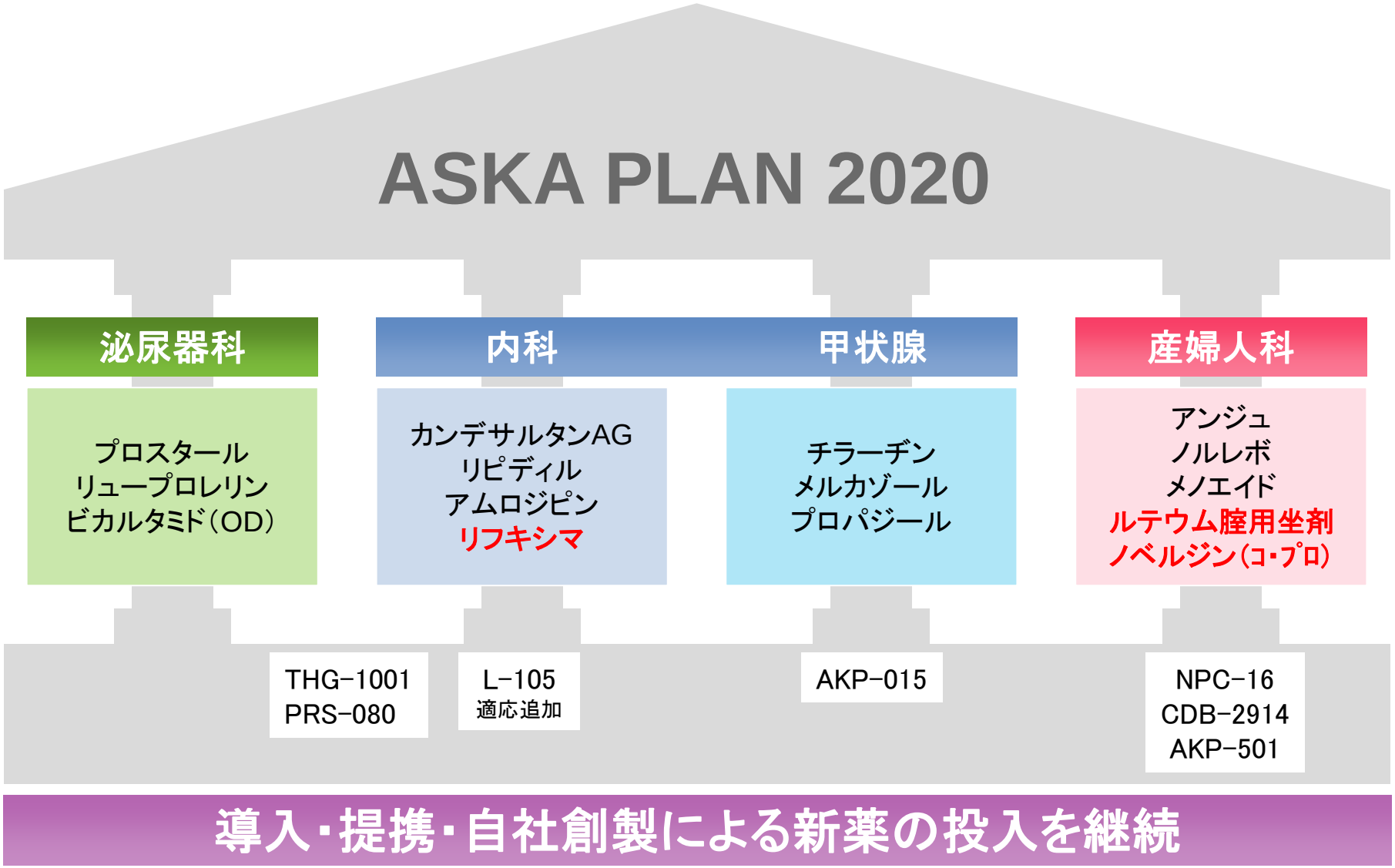
医療機関（産婦人科）





ASKA PLAN 2020の目指す姿

重点領域を支える製品ラインナップを拡充



あすか製薬グループ会社トピック

あすかアニマルヘルス

2017年4月1日開始

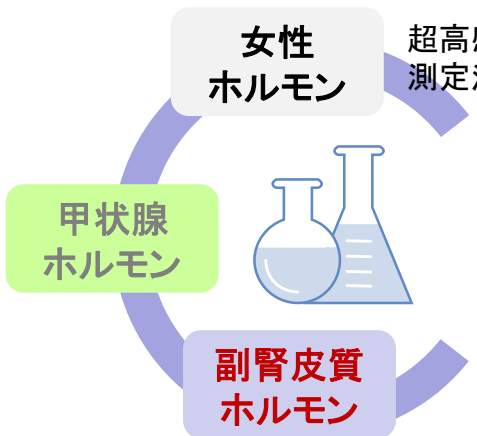
コ・プロモーション

DSファーマアニマルヘルス

（対象製品 ）
「ビクタス®注射液 5% 」、「ビクタス®水溶散 25%」
「ウルソ® 5% 」、「ウルソ®10% 」
「ウルソ®H注射液」、「ウルソ®V注射液1000」
「動物用タナベゾール®」、「動物用フリートミン®散 20」、
「動物用フリートミン®散 50」
「チルミシン®散2%」、「チルミシン®散5%」



あすか製薬グループ
株式会社 あすか製薬メディカル



独自技術を活用した
内因性ホルモン測定

研究検査受託

医療機関から測定依頼に応える
ことで、病態の詳細な解明に貢献

あすか製薬グループ

あすか製薬





医療用医薬品事業

あすか製薬メディカル







検査事業/ヘルスケア事業

あすかアニマルヘルス





動物用飼料・医薬品事業

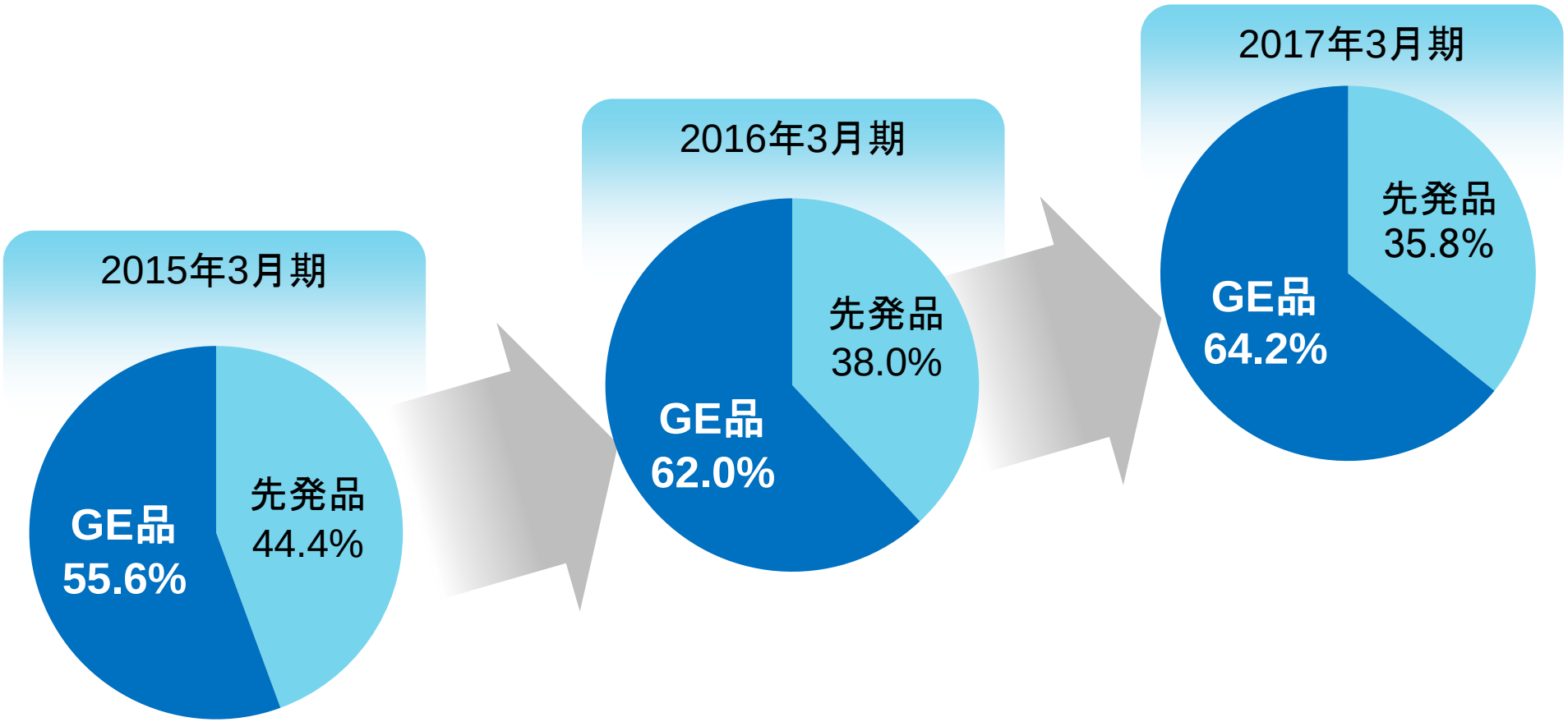
先端の創薬を通じて、

人々の健康と明日の医療に貢献する

あすか製薬株式会社

ASKA Pharmaceutical Co., Ltd.

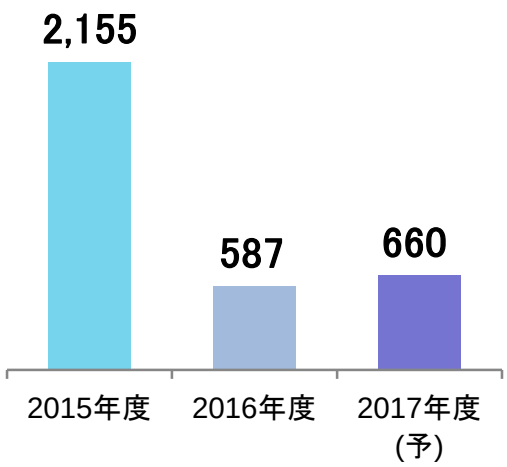
ご参考：医療用医薬品の売上構成比



ご参考：設備投資・減価償却費・研究開発費

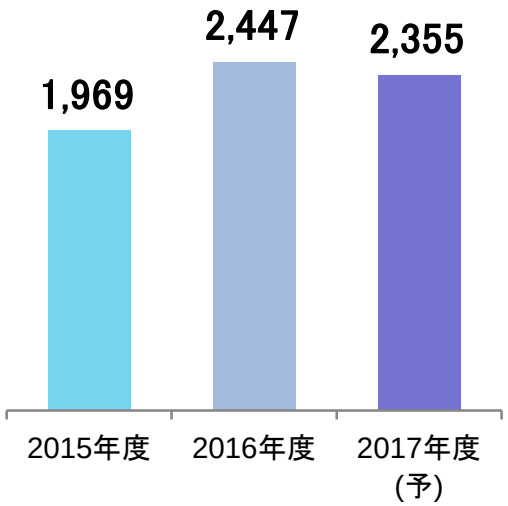
設備投資

（百万円）



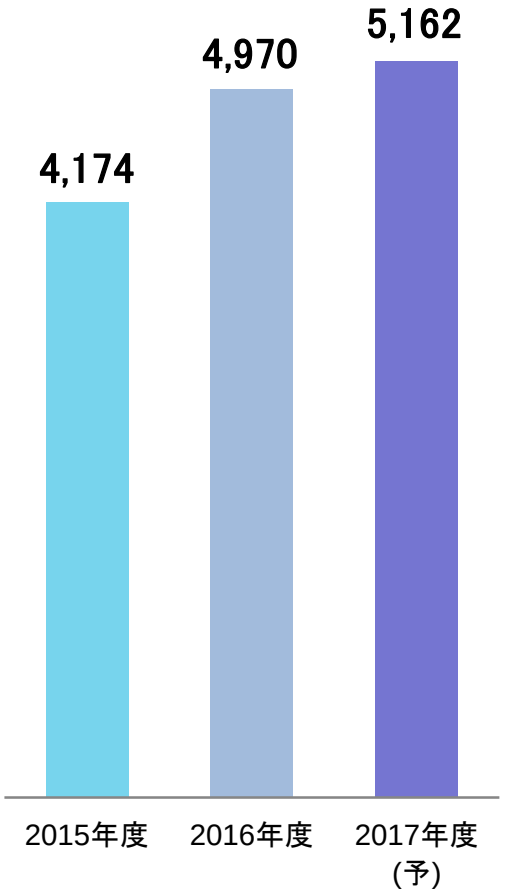
減価償却費

（百万円）



研究開発費

（百万円）



- この資料に含まれる将来の予測に関する事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定および判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております
- したがって、実際の業績、開発見通し等は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき願います
- 医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません

お問い合わせ先

経営企画部

Tel　：03－5484－8366

e-mail：kouhou@aska-pharma.co.jp

